

新潟・寺前遺跡

てらまえ

1 所在地 新潟県三島郡出雲崎町大字上中篠

2 調査期間 一九八九年(平一)五月～九月

3 発掘機関 新潟県教育委員会

4 調査担当者 赤羽正春

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 平安時代・中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

寺前遺跡は出雲崎の海岸から約二km内陸にあり、標高二五m、比高差一〇mの小高い丘を背に、島崎川に面して南側に開いた舌状の緩斜面上に位置している。

調査は国道一一六号線バ

イパス工事に伴うもので、

発掘面積約六〇〇〇㎡の中

に、縄文後・晩期、平安時

代、中世の遺物包含層が二

・五m堆積した複合遺跡で

ある。本年度は平安時代、

中世の調査を行った。



(出雲崎)

木簡が出土したのは地表から約八〇cm掘り下げた鎌倉時代の木組み水路の杭の根元である。この水路は小高い丘のすぐ下に掘られた一辺一・五mの縦板組み井戸から流れてくる水を受けるために、幅八〇cm、長さ五mにわたって樋状に設けられたものである。水路の側板をとめる杭で支えられている。底に設置された板の間が数箇所区切られており、それぞれに割れたカワラケが一箇所五～六枚ずつ出土している。

この水路と平行して三間×六間の総柱の掘立柱建物が存在する。

この建物の柱穴はすべて礎板を入れたものである。この他に一〇棟近い掘立柱建物が検出されている。この遺跡からは、鋳型・溶壁・鋳滓・トリベなどが出土し、鉄製品を製作していたことが知られる。

また漆器やその未成品、四〇点の下駄、五〇点の斎串、檜扇、櫛などの大量の木製品が出土している。焼物では珠洲焼が多く、中国陶

磁器のほか、東海産山茶碗、畿内産瓦器碗などが出土した。

8 木簡の積文・内容

(1) 「蘇民将来ノ子孫也」

蘇民将来ノ子孫也

172×25×2 011

鎌倉時代の木組み水路の最後尾をとめた二本の杭でとめられた枕

木の下、杭と杭の間から、三点出土した。他の二点も同文である。

水路設置に伴う、信仰上の札と考えられる。

(赤羽正春)